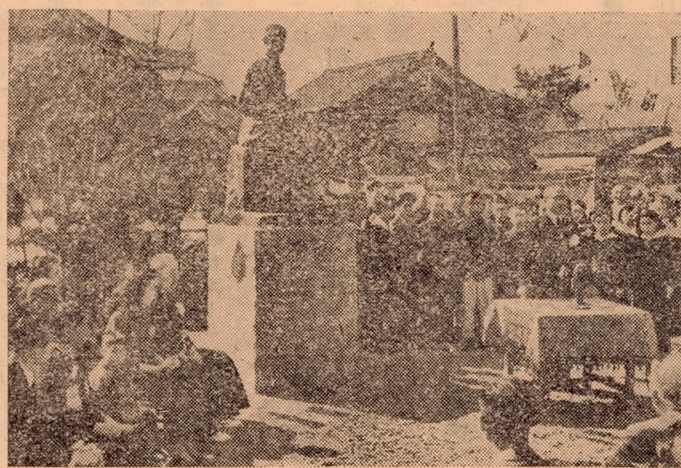


發行所
大分市役所
大分市荷揚町52番地
電話代表950番
編集發行人
内田達夫
印刷所第一印刷社

終了に際して

大分市長 上田保

十月 日全國一齊に實施されました國勢調査に際しましては、十萬市民皆様方には、本調査の趣旨を充分に御汲みとり下さいまして進んで此の調査に御協力を賜わり、一方又三百八十三人の調査員の方々におかれましては、公私とも何かと御忙しい中を、心魂を傾けてひたすら本調査に御盡力下され、お蔭をもつてここに滞りなく本調査を終了することができました。これ偏に皆様方の深い御理解と厚い御協力の賜と深く感謝している次第でございます。	申告して戴き、又調査員の中には家族の不幸をもの順ず、調査を立派になし遂げられた方もあり、或いは深夜までもいとわす浮浪者の調査にたずさわり、或いは徹夜して職責を全うした方々など、数々の御苦心、御健闘の跡を残して、ここに此の調査を立派に終了する事ができました。
調査事項の中には、家庭の機微に亘る点に迄立ちつた事例も少なくないものであります。各位には眞正直にありのまゝの事實を	調査に携る調査員の方々調査を受けられた市民各位とが渾然一体共々に手に手をとってつてなしたげた麗わしい成果だと感銘しております。
調査事項の中には、家庭の機微に亘る点に迄立ちつた事例も少なくないものであります。各位には眞正直にありのまゝの事實を	こうして集められた調査票は縣當局を経て中央に提出する運びになつていきます。勿論箇々の調査票は一枚残らず中央に引き揚げ市に



瀧廉太郎銅像除幕式

感激、感歎の
瀧銅像除幕式！

七日午前十時絶好の秋日和に恵まれた「瀧廉太郎銅像除幕式」は厳肅盛大に行われた。先づ除幕は樂聖の令妹安部トミ女史令孫生朗君（四歳）と銅像製作者朝倉文夫氏令嬢響子さんの手でなされ、その見事な出来ばえに参列者一同を魅了し、折々から起る一高男女生徒の「ああ瀧廉太郎」の歌聲はこの感激を更に一入と深める……

次いで銅像建設計画長上田市長のこの銅像建設を發願した経緯と建設に寄せられた各位の感謝の言葉、更に製作者朝倉文夫先生の精魂こめられた藝術的御態度に対する感謝と感激の言葉とこの日本

一の瀧邊歩公園を尙立に對する感謝狀の贈呈派にして感くために廣々來賓細田知事、飯田致く一般の方々の御支援を願ひ挨拶がなされた續いて銅像製作者朝倉先生、高嶺寄附者大分合同銀行頭取後藤三郎氏、大分バス社長佐藤恒彦氏、大分交通社長松岡能秀氏、富士紡大分工場長玉井俊三氏、大分通運大分支店長安藤槌藏氏、九配大分支店長脇秀一氏、大分貨物運送社長磯崎次氏、トキハ社長藤井文雄氏、樂聖の令妹安部トミさんは起つて生前の師に接し得た感激と感謝の言葉述べられるや樂聖の代表曲「荒城の月」が嚴肅高らかに合唱され、この歴史的除幕式を終り、令妹安部トミさん、朝倉先生、同令嬢響子さん

や上山市長など打連れ
て万壽寺の樂聖の墓に
詣て銅像建設を報告し
た

尙除幕式と墓參の模
様は日本ニュースに撮
影され全國に上映され
るが、十四、十五兩日
引續き行われる新施設
めぐりハイキング會の
コースとなつてゐる遊
歩公園に是非皆様御出
下さつて、大分の名所
となつた瀧銅像を御覽
願ひたいものです

(弘報係)

小野壽金物店 金杓子
二十個
古城商酒店 兩面蜀紙
十五卅
三洋商會 燒酎 一升
東九州電機株式會社
電球十個
多田硝子店 醬油差三
打
松村硝子店 ホームセ
メント五袋
德丸信太郎氏 鶏一羽
西日本食糧加工株式會
社 雞一羽
大分市山羊協會 山羊
一頭

て滿腔の誠意を披瀝し、市氏各
盡した事に對し、一位と共に洵に御同慶の
意義深さを感じるの至りに堪えないところ
であります

懸賞

全市を擧げての話題
施設めぐりハイキン
グ會に是非御参加を

賞品續々御寄贈

七日八日の兩日に引續いて行われる「大分市新施設めぐりハイキング會」は新施設の認識を深めようとする市民の關心を深め七、八兩日以上に明十四日の土曜と十五日の日曜には多數市民の方々の参

加を予想されています。市民の方々に十月七、八、十四、十五日の四日間に七ヶ所の市新施設を巡ればよい事が理解されて、一部巡回する方も残りの巡回場所を巡る方も多い模様です。

に於いて、くじ引でこの賞品の山をお當てになる興味も添えられる譯です。

まだこのハイキング

ハイキング會の賞品
朝倉文夫先生よ

計六個
第一印刷社
鹼箱十個
等置食肉店
石鹼と石
精肉一貫
匁

新施設めぐり

ハイキング會の盛況

大分市の新施設であす

る色々な公園やプール
グラウンドなどを市
民の皆様に御観覧願
うるようですから、こ
のハイキング會は七日
八点御間違ひなく明

既に參加者約八千名

ハイキング會の盛況

--	--	--	--

朝倉先生の
精魂こめた作品
瀧銅像見学

七日開幕式直後大分市の誇り得る藝術の香高い瀧廉太郎銅像をつぶさに拜見した

銅像は樂聖の終焉の地に接する大手通り遊歩公園南寄りの地、岡山産の赤御影の臺石上に、等身大の若々しい樂聖の俤を傳えたもので、彫塑界の大御所朝倉文夫先生の數ある作品中でも快心の作である

銅像正面臺石には「瀧廉太郎君像——一九五〇」の銅板文字、その下に「人生は短し、藝術は長し」と刻まれ、これは樂聖と製作者朝倉先生の兩方に通する言葉と感じられた

銅像裏面には製作者朝倉先生の感想が次の様に彫り込まれている

瀧君とは竹田高等小學校の同窓であつた君は十五歳、自分は十

朝倉先生の
精魂こめた作品
瀧銅像見学

一歳、この二つの教室は丁度向い合つていたので、僅か一年間ではあつたが印象は割合に深い。

しかしそれから君の亡くなる迄の十年間はほとんど何も思い出せないのに、十一歳の印象を土台にして君の像を造ろうと云うのである。

多少の不安を抱かぬでもなかつたが、製作に着手して見ると印象はだんだん湧えて来て古い記憶は再び新しくなり、追憶は次から次々と蘇る。

學校の式場でオルガ

ンの彈奏を許されていたのも君、裏山で尺八を吹いて全校の生徒を感激させたのも君、それは稻葉川の川瀬に和した忘れることの出来たない音律であつた。

そして八年後には一世を劃した名曲「四季」「箱根山」「荒城の月」に不朽の名を留めたことなど、美しい思い出の中に楽しく仕事を終つた。

昭和二十五年八月十五日 朝倉文夫識

今、自分は五十七年童の童心に立ちかえり、幽懷つくるころをしらす。

君を嬢れば笛の音や
將に月を呼ぶ
と誌され朝倉先生の
藝術意欲の如何に大で
あつたかをしのばせる
ものがある。更に朝倉
先生は二十五年前の有
名作品で文選に出品さ
れた「みぎりのかげ」
と題する女性裸像を
大分市に寄贈せられ
て遊歩公園中央に置かれ
たのであつて、先生の
御厚情で遊歩公園は更
に一段の藝術的景園氣
を加へられたのであり
ます。市民の皆様は御
觀覽を切に希望致しま
す (弘報係)

は七八六三枚の参加カードをお渡ししたが内完全に廻られた方は一二五巡目に過ぎないの四、十五の兩日にお忘れなく残りの施設を全部廻られるようお勧め致します

特にこのハイキング會に各方面から寄せられた賞品追加は次の通りで尙續々御申込を受け整理中でありますので、十六日後に行われる盛大な抽せん會にはアツと云われるような賞品の山を築くでありますようにし、参加者はハイキングのお楽しみ

會に参加する要領を御存じない方は二面の記事を御覧願つて、御家族御近所お誘い合せ是非このハイキング會丈は御参加下さい

いすゞ自動車株式會社
ノート三十冊

三 清 樓	折詰七個
春 日 亭	〃 五個
み や も と	〃 五個
三 洋	清酒一升
双 葉	サイダー六本

A detailed illustration of a dark, gnarled branch extending from the right side of the page. The branch has several small, dark, oval-shaped leaves attached to it. A small, light-colored insect, possibly a fly or a bee, is shown in flight near the bottom right of the branch. The background is a light, textured surface.

更に十一、十五日土曜日の曜の兩日の四日間に七ヶ所の新施設を巡つて戴くのであるが、七日八日は折からの秋の爽やかなハイキング日和に加へ、七日は龍銅像除幕式當日ではあり熱心な市民の方や御家族連れなど市係員は証印を捺すのにテンテコ舞のうれしい悲鳴をあげる有様でした

ハイキング會御参加の方々に特に申上げたことは残る十四、十五の兩日に七ヶ所の市施設を巡つて戴くことで、無理に一日の内に巡らなくてもよいので

實品のくじ引は十六日以後に盛大に行ひますが、その結果は市報や大分合同新聞、夕刊大分などで發表します

七日八日兩日に参加された總数は七八六三名に達し内全部巡り終られた方は一二二五名となつています。このハイキング會に御参加下さつた方々に感謝すると共に残る十四、十五の兩日に尙多數の方々の御参加を切望致します

(弘報係)

印覽回					
-----	--	--	--	--	--



ハイキング會の賞品
朝倉文夫先生より贈られた色紙―梅―

印覽回

七、家屋戸數四拾戸（一戸建）
八、家屋の構造木造、
十家、瓦葺、六疊、四
疊半、三疊、自給菜園
約二拾坪付
（注意）
既にお問合せなどし
た方も本告示で更に正
式に個々にお申込み
をお願いいたします。